

いっぺいといっぱく Vol.57



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



白い街

昭和42年、石原裕次郎さんが歌う「白い街」がヒットしました。サビの部分のフレーズのおかげで、その当時、名古屋はコンクリートで覆われた街というイメージが定着してしまいました。

今、名古屋市内の広小路通や桜通を車で走ると、街路樹の立派な大きさに驚きます。栄の久屋大通公園には、緑があふれています。春には、木々が一齐に芽吹き、秋には紅葉し、ハラハラと落葉する様子は、とても美しいと感じます。

名古屋市のホームページ「なごやの街路樹の歴史」を見てみると、昭和30年代以降、トウカエデやアオギリなど、早くに大きくなる種類を中心に都市緑化を進め、昭和50年代以降は、ハナミズキなど花の咲く種類の街路樹を多く植えてきたそうです。

私は、昭和30年代後半、名古屋中心部のあちこちで街路樹を植える工事が行われていた光景を覚えています。石原裕次郎さんが「白い街」を歌った当時、街路樹はまだまだ小さいものですが、あれから50年が経った今、名古屋を「白い街」と思う人は少ないでしょう。街路樹が大きく育ち、私達の目を楽しませ、癒してくれるまでに成長するには長い時間がかかります。大きな木を育てる時間の積み重ねが、まちの歴史につながっていると私は思います。

先日、東京に出張した際、東京駅の丸の内、八重洲ともに、新たに大きな木が植えられているのを見ました。大きな木があることで、無機質なビル群が潤いのある空間になっていました。大きな木の植樹は、とても難しいと言われます。私は、「江戸時代からの高度な技術が引き継がれているのかな」と思いながら、その景色を写真に収めてきました。

数年前、本市も加入する健康都市連合日本支部大会で千葉県流山市が、健康都市実現に向けた取り組みとして「まちなか森づくりプロジェクト」という公共施設や道路用地などのちょっとしたスペースに植栽を行い、まちの中にみどりをつくる取り組みを発表され、私は驚きました。なぜ、驚いたかというと、それまで健康都市実現に向けての取り組みは、生活習慣病予防や身体活動・ウォーキング推進など、健康と直接結び付く取り組みがほとんどであり、「まちなかみどりをつくる」という、一見、直接的に健康とは結びつかない視点からの発表を初めて聞いたからです。

健康のためには、歩くことが必要です。しかし、夏の暑い日、木陰もないところを歩けません。木陰を生む大きな街路樹があることで、歩くことが楽しいまちになるのです。



ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付



表紙の写真もう一枚

清々しい晴天のもと、「Enjoy!スポーツの祭典」が行われました。参加者全員でラジオ体操を行ってから、競技がスタート。グラウンドゴルフながくてカップやドッジビーとばし、体力チェックなどの様々な種目が行われ、子どもからお年寄りまで、みんなでいっしょにスポーツを楽しんでいました。

